

効果的な支援のための 補助金の力



東京麴町RC 国際奉仕委員長 吉田 弘和

インドネシアのバリ島にあるバリ・ヌサドアRCと共同で申請した現地医療支援（こうしんこうがいれつ口唇口蓋裂「CLP」患者の治療）のためのグローバル補助金事業は、ロータリー財団ならびに第2580地区からの補助で、総額7万2,523ドル（約770万円）の資金を得ることができました。この事業で数多くの子もたちの命と未来が救われ、手術に携わる現地の医師の育成にも資することができます。現地視察から申請まで多くの出会いがあり、たくさんの学びがありました。

会員の友人がバリ島にいた縁が発端

当クラブの若林英博会員の友人で、バリ・ヌサドアRC唯一の日本人会員である行本正晴さんとの縁により、現地のCLP患者の状況を知りました。

バリ・ヌサドアRCは1994年から子どもたちへの手術を支援。グローバル補助金や他クラブの協力を得ながら、これまでに1,700件を超える手術実績を残していました。ただ、この病気のことや、現地の対応状況は皆目見当がつかず、まずはこの目で確認しようと思い、昨年9月、クラブの有志

6人がバリ島に飛び、現地を視察しました。

インド洋に浮かぶ常夏の楽園バリ島。ダイビングスポットなど幻想的な水中世界に囲まれビーチには高級リゾートホテルが軒を連ねています。舞踊、音楽、絵画などの宮廷文化、ヒンズーなどの宗教文化を受け継ぎ、世界遺産も擁しています。しかし、こんな輝かしい楽園の裏に潜む貧困問題、そして子どもたちの健康問題は、あまり取り上げられません。

現地のバリ・ヌサドアRCによれば、CLP患者は世界的にも、バリ島での

発症率が極端に高いらしいのです。

現地クラブがやっていること

現地では会長のリストさんやCLP支援事業責任者のカールさん、行本さんをはじめ多くの会員に出迎えを受け、CLPの手術を行っている病院に案内してもらいました。会議室でCLPの概況を聞き、この病気が単なる外見だけではなく、命に関わる問題であることも学びました。乳児は母乳を十分吸収できず、親が子育てを放棄する現実もあるのです。

続いて、実際に患者との面談。わが

支援活動までの時系列

出会い

若林会員（東京麴町RC）と、行本会員（バリ・ヌサドアRC）は元々高校の同級生だった。

1994

バリ・ヌサドアRCがバリ島のCLP患者への支援活動を開始する。

再会 要請

2019

若林会員は、地区の奉仕活動情報交換研究会において、東京浅草RCがバリ島で行ったてんかん治療支援活動について発表した際、行本さんの名前を見つけ、連絡を取って数十年ぶりに再会。その際、本件の医療支援への協力を求められる。

クラブ内でプロジェクトチームを発足。2019年9月に行本さんが来日し、例会で現地の状況を説明。次に、プロジェクトチームのメンバーがバリ島で現地調査を実施。吉田会員がプロジェクトリーダーに就任し、クラブ内で国際奉仕委員長として本件を主導。

視察



子の病状を堂々と私たちに見せる親の様子から、これまで継続されてきた支援で信頼が築かれていることがすぐに分かりました。その後、手術室で抜糸の現場にも立ち会いました。泣き叫ぶ子どもの姿がありましたが、こうした処置で一人一人の命が救われているのを実感しました。

次に、手術前後に患者らが利用する宿泊施設を訪問。協力関係にあるNPO「Kolewa Foundation」が運営しています。宿泊場所の提供にとどまらず、健康や衛生環境などの教育も重要なミッションで、冊子を作成してその普及に努めていました。

この施設で初めて歯磨きを体験したという患者も少なくありません。スタッフが手術後のトレーニングを披露し、行き届いたケアがあることに感銘を受けました。

最後に提携先の歯科医院「Bali 911 Dental Clinic」に立ち寄りました。CLPの手術には口内衛生が必須です。

限られた費用の中、多くの歯科医が善意で対処しています。

バリ・ヌサドアRCの例会にも参加しました。例会前にこのプロジェクトについてまとめたプレゼンテーションを受けました。会員の国籍が21カ国という国際色豊かなクラブのこのプロジェクトは、欧米出身のビジネス経験豊かな会員がかけ取り役。長年の実績、考え抜かれたガバナンスと透明性があり、これまでも高い評価を受けてきた理由がうかがえました。

現地クラブの経営能力の高さに驚く

3日間にわたり医療支援の現場を視察し、バリ・ヌサドアRCの担当者や連携先のNPOのメンバーと議論を重ねる中で、相互信頼が深まっていきました。中でも感銘を受けたのが、この医療支援運営の経営力の高さです。バリ・ヌサドアRCが患者一人一人の情報をデータベース化。バリ島周辺地域全域でコミュニティーを巻き込んだ啓

発活動、資金管理の透明性や他のNPOとの連携などを見て、帰国時には私たち6人の気持ちはこの支援事業に参画しようと固まっていたのでした。

助けを借りながらウェブ申請

グローバル補助金は全てインターネット上の画面で申請手続きが進みます。帰国後は第2580地区ガバナー事務所ならびに地区補助金委員会にも指導をもらいながら、バリ・ヌサドアRCと共同、ロータリー財団担当者からの指摘事項にも誠心誠意、説明責任を果たし、ようやく申請書が完成しました。現地の思いがうまく伝わるように和訳にも工夫し、所属クラブ内でも多くの賛同を得ることができました。

こうして皆さんから理解と支援を受け、ようやくグローバル補助金の承認を獲得しました。これから、このプロジェクトが動き出します。

(第2580地区 東京都)



現地で立ち会った抜糸の現場

ロータリー財団へ申請するための作業に着手したのが12月。何度も修正を加えながら2020年4月に書面が完成。My Rotaryの補助金センターから申請した。

申請

コロナ禍以降は手術を中断。現在患者リストは20人を超えており、手術前の健康チェックや食品の支給など予備的な取り組みを行うにとどめる。10月頃に手術の再開を検討している。日本では広報活動用に動画を制作。地区の国際奉仕委員会でも経験を共有し、この医療支援への理解・普及に努める予定。



患者家族に配布する健康冊子を説明する連携NPOスタッフ



初めて医療現場を見て重苦しい表情を隠せない東京麹町RC会員

2020

承認

活動